

東日本大震災後の復興計画に必見!

● 高度成長の波にのって日本の都市空間が激変しつつあった一九六〇年代半ばより漁村に魅せられ調査を重ねた建築家地井昭夫。
海の彼方から訪れる神を迎えるための場所を中心とした街づくり、「核家族」や「フライバシー」といった枠にとられない集住スタイル、
浜辺の環境保全や防災ネットワークとしても機能する自律システム……。
40年余の漁村フィールドワークが明かす、しなやかな生き方・住まい方。



漁師はなぜ、 海を向いて住むのか？

地井昭夫

著

地井昭夫 (CHI-I Aka, 1940-2006)

早稲田大学で建築家。

吉阪隆正 (1917-1980) に師事。

広島工業大学助教授、金沢大学

広島大学、広島国際大学教授などを歴任。

漁村計画研究所および漁村研究会を

発足させ、全国の漁村計画や

漁村の環境改善と生活改善に関する研究と
提案を精力的に行う。

漁師はなぜ、
海を向いて住むのか？

予価 2800円+税

ISBN978-4-87502-446-0

C1052 Y2800E

A5判/上製/304頁

2012年6月28日

刊行予定!

【概要】

序 漁師はなぜ、海を向いて住むのか？

1 来訪神空間としての漁村

2 しなやかな家族

3 発見的方法

4 エトスの表現としての農村空間

5 島と本土の防災地政学

6 人類の海の三度目の旅

付録 都市のORGANON——現代建築の告別の辞

解題 解説——幡谷純二重村力



工作舎

[お問い合わせ先] ▶▶▶

〒169-0072

東京都新宿区大久保2-4-12

新宿ラムダックスビル12F

tel: 03-5155-8940

fax: 03-5155-8941

<http://www.kousakusha.co.jp>

saturn@kousakusha.co.jp